

半田市中心市街地活性化ビジョン

2019年3月
半田商工会議所

<目次>

I. ビジョンの位置づけ

1	これまでのまちづくりの経過	1
2	ビジョン策定の趣旨	1
3	ビジョンの位置づけ	2
4	ビジョンの計画期間	2
5	ビジョンの対象エリア	3

II. 中心市街地の現状と課題

1	社会情勢の変化	4
2	中心市街地付近の現状	5
3	中心市街地に対する市民の意見	6
4	中心市街地の活性化に向けた課題	8
5	半田市の中心市街地における「活性化」とは	9

III. 中心市街地まちづくりの基本方針

1	理念・ビジョン	10
2	ターゲット（ペルソナ）	11

IV. 実施する取組

1	次世代育成・起業支援による新たな事業創出	12
2	暮らしを豊かにする商業・サービスの向上	13
3	公共空間等を使いこなした新たな魅力づくり	14
4	新たな魅力を生み出すための場づくり	14
5	WEB等を活用した独自コンテンツの開発・発信	14

V. 実施の際の視点（留意点）

1	「稼ぐ」仕組みづくり	16
2	時代の変化に対応できる柔軟性	16
3	歴史・文化を未来につなげる	16
4	WEBや新たな技術の活用	16
5	エリアのゆるやかなつながりによる相乗効果	16
6	スモールスタート、トライ&エラー	16

VI. 実現に向けた推進体制

1	実行組織のイメージ	17
2	発足までのステップ	18

I. ビジョンの位置づけ等

1 これまでのまちづくりの経過

半田市の中心市街地である知多半田駅周辺においては、平成の時代に入ってから、土地区画整理事業により駅前広場・道路・公園などの基盤施設を整備し、また市街地再開発事業により「クラシティ」を整備してきました。

これらにより、ハード面はきれいに整ったものの、人の通行量は少なく、依然として低未利用地が多く、街の「にぎわい」は失われつつあります。市民ニーズを踏まえて交流や賑わい創出を目的としたイベントなどの様々なソフト事業にも取り組んできましたが、知多半田駅周辺に対する市民の関心も高い状況ではありません。

市役所・商工会議所・地権者・地元有力者など様々な立場の方々が連携して取り組んできたものの、過去の経緯やバランスに配慮するあまり、特色やインパクトに欠けた取組になり、また責任の所在が曖昧になっていた面も否めません。こうした状況のなかで、地域の商業者を中心に、このままでは厳しいという危機感も生まれてきました。

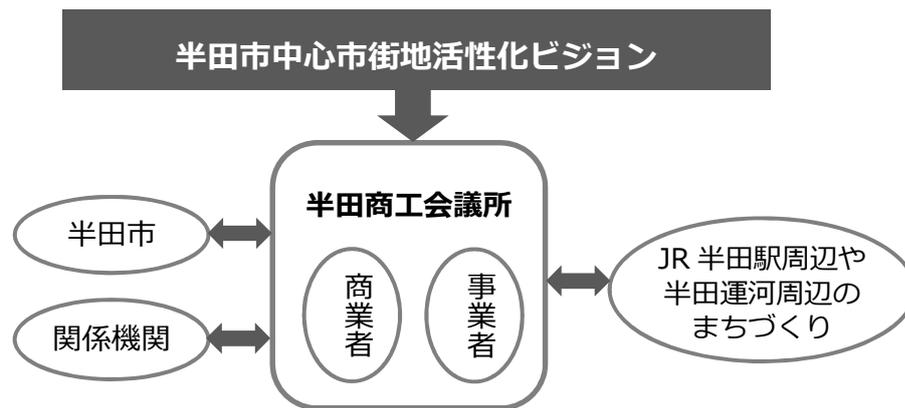
2 ビジョン策定の趣旨

知多半田駅周辺は今後も半田市のみならず知多半島の「顔」であるべきであり、市民や来訪者に親しまれる街にしていく必要があります。そのためには、きれいに整った駅前広場・道路・公園や「クラシティ」などを活用しながら土地利用を活発化させるとともに、ソフト面の取組を充実させることにより、新しい時代にあった「にぎわい」をつくっていく必要があります。そこで、半田商工会議所では、有識者等によるビジョン策定委員会を設置するとともに、地元商業者等によるワーキンググループで議論を重ねながら、にぎわいづくりに向けた具体的な行動の方針を示す計画を策定しました。

今後、当所としては、この計画に沿って地域の商業者等と連携を図りながら各種事業を展開するとともに、行政や関係機関の協力を得ながら、様々な取組を当事者目線で推進していきます。そして、半田市内外の様々な人に知多半田駅前で「何かしてみたい」「新しいことにチャレンジしたい」と思ってもらえるようなまちづくりを展開していきたいと考えています。

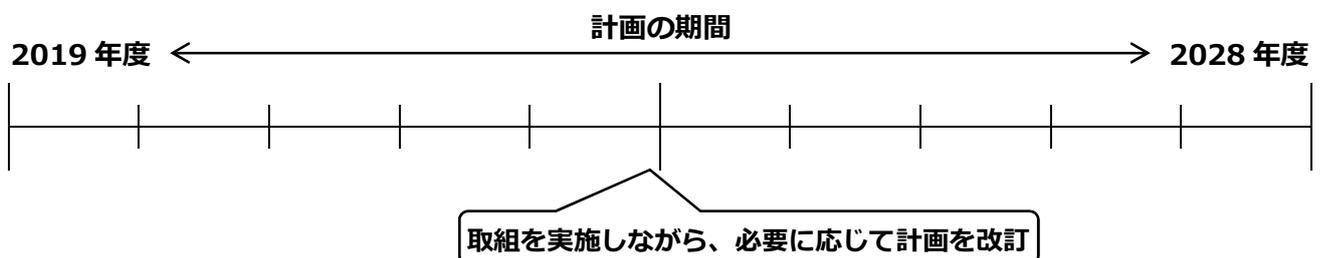
3 ビジョンの位置づけ

- この計画は、当所が地域の商業者や事業者とともに中心市街地の活性化を目指すための計画です。
- 計画にもとづく取組の実施においては、半田市等の行政や関係機関と連携を図りながら進めていく必要があります。また、今後進められていく JR 半田駅周辺や半田運河周辺のまちづくりとも連携を図りながら、相乗効果を生み出すようにしていきます。



4 ビジョンの計画期間

- この計画は、概ね 10 年程度（2019 年から 2028 年）を見据えた計画とします。
- 様々な取組を実施しながら街の状況を常に見つめ直し、必要に応じて計画を改訂していくこととします。



5 ビジョンの対象エリア

<本計画による活性化の想定エリア>

名鉄知多半田駅と JR 半田駅の間の、土地区画整理事業により整備された区域

<連携してまちづくりに取り組むエリア>

JR 半田駅周辺や半田運河付近など、周辺において様々なまちづくりの取組が実施されている区域



Ⅱ. 中心市街地の現状と課題

1 社会情勢の変化

■ 少子高齢化の進展、人口減少期への突入

・全国的には少子高齢化が進展しており、人口も減少期に突入しています。半田市においても少子高齢化は進んでおり、人口全体では現在は微増傾向にありますが、今後は減少に転じることも予想されます。

■ 外国人住民の増加

技能実習生や留学生などによる外国人住民は全国的に増加しています。半田市においても、周辺に製造業等の受入企業が多いことから、外国人市民が増加傾向にあり、今後もさらに増加することが予想されます。

■ 経済低成長時代

平成初頭のバブル経済以降、経済は低成長時代に突入しました。最近是人材不足から雇用の状況はよくなっているものの、かつてのような右肩上がりの高度成長時代は終わり、市民や企業の消費や投資は低迷しており、このことがまちづくりにも影響しています。

■ 価値観・ライフスタイルの多様化

市民の価値観やライフスタイルの多様化により、晩婚化や非婚者の増加、結婚・出産後の女性就業の増加などが進み、市民の生活や消費を変化するとともに、人とまちとのつながり方が変化する要因になっています。

■ 情報化社会の進展

インターネット環境が整備され、情報化社会が急速に進展することにより、市民が容易に情報を取得できるようになるとともに、ネット通販等により市民の購買行動も大きく変化しています。また、SNSの普及により、市民どうしが直接つながったり、自ら情報発信が容易にできるようになっています。今後はIoTやAIなどの発達により、生活や働き方も変わると考えられます。

■ つながり、承認欲求の重視

かつては、物の購入や消費に対する欲求は強くありましたが、最近の所得の伸び悩みや先行き不透明の状況の中で、若年層を中心に物に対する欲求は減少し、SNSの普及を背景に、人とのつながりや「いいね」などの承認への欲求が強くなっています。

■ グローバルとローカル

国際化の進展とともに、インターネットやSNSの普及により、人々が全国各地や世界とつながる機会が増加し、「グローバル化」が進んでいます。一方で、自分の住む地域や旅行先などの地域とのつながりを求める「ローカル」に対する関心も高くなっています。

2 中心市街地付近の現状

■ 土地利用

- ・ 区画整理により、区画道路や街区公園が整備され、街区が整形化されました。
- ・ 中心市街地内には、最近は中高層マンションの立地が多くなっています。
- ・ 一方で、区画整理の換地が終了しても建物敷地として活用されていない、低未利用地が多く存在しており、その多くが青空駐車場として利用されています。

■ 地価

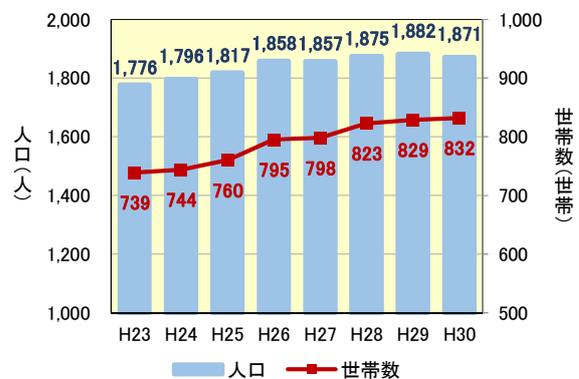
- ・ 中心市街地付近の地価は、半田市で最高価格となっています。
- ・ 最近は下落傾向にあり、2018年では1年前に比べて0.7%、10年前に比べて約10%価格が下がっています。

■ 都市計画

- ・ 対象エリアの地域地区は商業地域・防火地域であり、指定容積率400%、建ぺい率80%となっています。
- ・ 対象エリア内の都市計画道路は区画整理により整備済となっていますが、JR線を跨ぐ部分は未整備であるとともに、名鉄線を跨ぐ道路をはじめとして周辺と中心市街地をつなぐ道路が比較的弱くなっています。

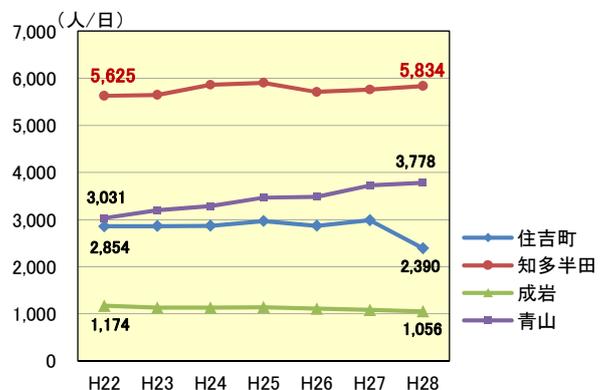
■ 人口・世帯

- ・ 中心市街地では、マンションの立地が影響して居住人口や世帯は増加しています。
- ・ 居住者は40歳代及び60歳代が多く、また単身世帯・夫婦のみ世帯が多くなっています。



■ 知多半田駅の乗車人数

- ・ 1日平均の乗車人数は5,834人であり、最近はほぼ横ばい状況です。
- ・ 半田市内では、最近では青山駅の乗車人数の増加が大きくなっています。



■ 事業所数

- ・ 中心市街地付近の事業所数は、全事業所、卸売・小売業ともに減少傾向にあり、閉店や移転等による撤退が見られます。

■ 駐車場

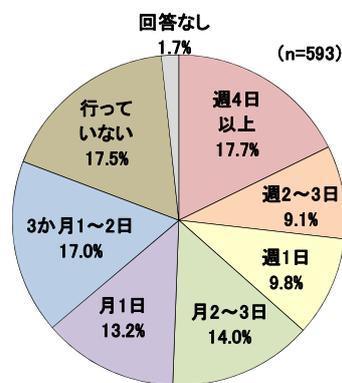
- ・ 中心市街地付近には、店舗等利用者用や、月極、コインパーキングなど駐車場は充実しています。
- ・ 時間極駐車場の稼働率は平均で約 40%、通勤による長時間利用が多くなっています。
- ・ クラシティ駐車場の稼働率は約 20%です。
- ・ 自動車利用の来街者の意見として「駐車場が少ない」「料金が高い」という意見がある一方で、「特に不便は感じない」の意見も多くなっています。



3 中心市街地に対する市民の意見 2018年6月実施の市民アンケートより

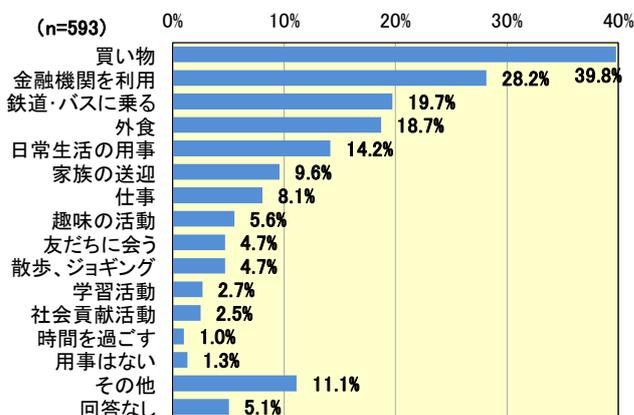
■ 中心市街地への来街頻度

- ・ 週1回以上が 36.6%である一方で、月1回未満が 34.5%となっており、約 1/3 の市民が中心市街地にほとんど来ていません。



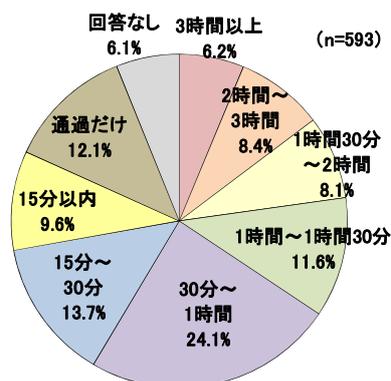
■ 中心市街地への来街目的

- ・ 買い物、金融機関、鉄道・バス利用、外食、日常生活の用事が多く、趣味やレクリエーション、学習活動等は少なくなっています。



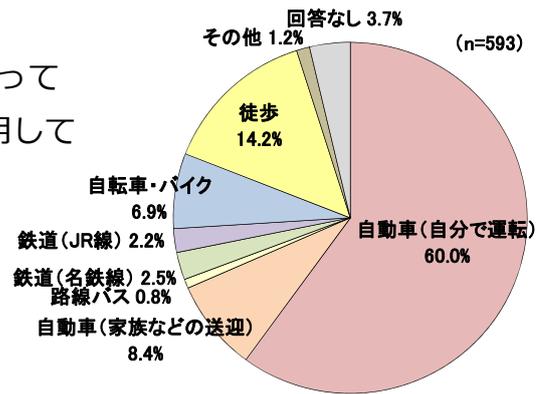
■ 中心市街地の滞在時間

- ・ 30分~1時間、次いで15分~30分が多く、滞在時間はあまり長いとは言えません。滞在せずに通過だけの人も多くなっています。



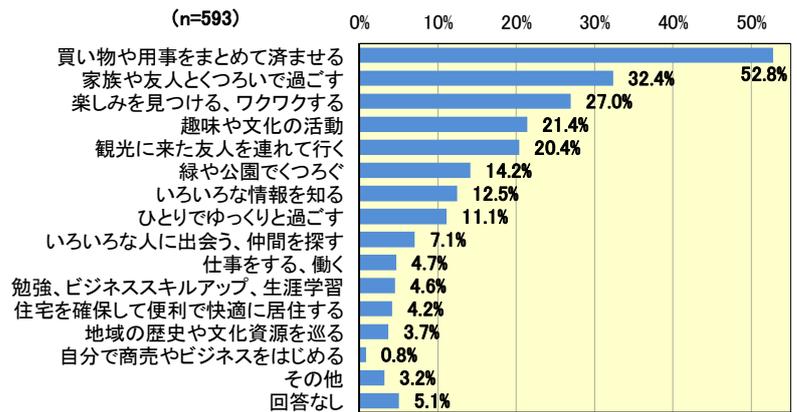
■ 中心市街地への交通手段

- ・自動車で来街する人が60%を超えて多くになっており、鉄道やバスなどの公共交通機関を利用して来街する人は少なくなっています。



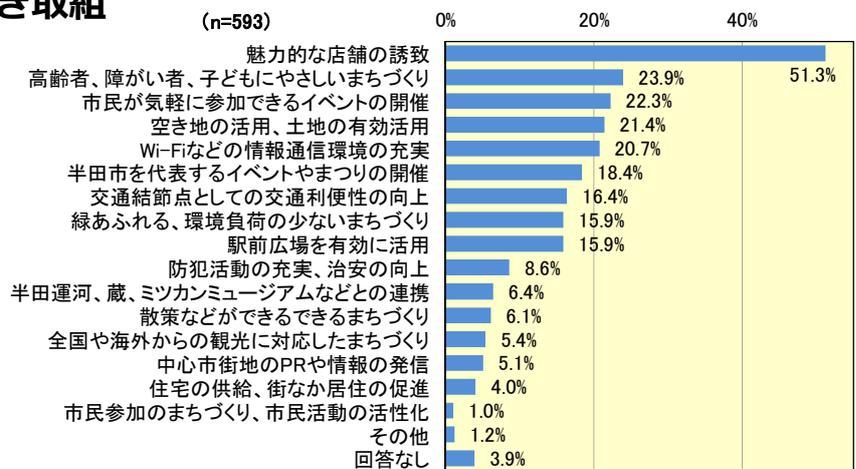
■ 中心市街地でしたいこと

- ・買い物や用事が最も多いものの、家族や友人とのくつろぎ、楽しみ・ワクワク、趣味や文化の活動を中心市街地に求める人も多くなっています。



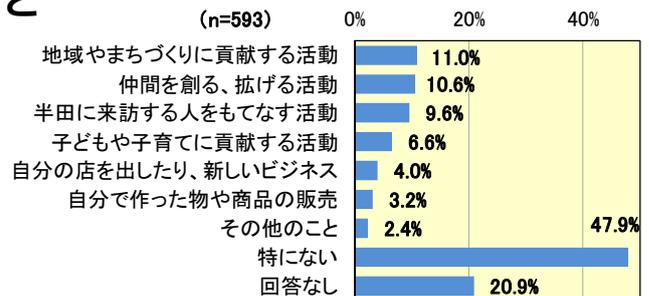
■ 中心市街地で実施すべき取組

- ・魅力的な店の誘致が50%を超えて多くになっており、その他も、高齢者・障がい者・子どもへの配慮、イベント開催、空き地の活用、Wi-Fi等の充実情報通信環境等の意見が多くなっています。



■ 中心市街地で自分がやってみたいこと

- ・まちづくりへの貢献、仲間づくり、来訪者のもてなしの活動に意欲のある人が、それぞれ10%程度ずつとなっています。



4 中心市街地の活性化に向けた課題

■ 土地活用の活発化

区画整理後の土地活用が進まず、低未利用地の多いことが、にぎわいや街並み形成の阻害となっています。このため、有効利用を促すための取組や仕組みが必要です。

■ 公共空間の有効活用

区画整理によりまちづくりが行われたため、道路・公園・駅前広場などの公共空間が充実しています。これらの公共空間は人が集まる重要なポイントであることから、本来の機能を損なわない範囲で、まちのにぎわいづくりに貢献する活用も推進していく必要があります。

■ 周辺のまちづくりとの連携

最近では半田運河周辺におけるにぎわいづくりの取組が活発に行われているとともに、JR 半田駅周辺のまちづくり（連続立体交差＋土地区画整理事業）がこれから本格的に動き出します。これらは中心市街地にも大きな効果が期待されることから、連携した取組を行う必要があります。

■ 駐車場の利便性向上

中心市街地の駐車場については、全体の台数としては余裕があり大きな問題点はありませんが、自動車による来街者が多いことから、利用方法や利用料金、情報提供、駐車場の相互連携など、駐車場の利便性向上の検討が必要です。

■ 多様な手段による積極的な情報発信

SNS が普及し、市民の情報取得手段が多様化する中で、中心市街地に関する情報について、マスメディアだけではなく SNS など活用しながら、積極的に情報発信していくことが必要です。また、最近では市民や事業所からの情報発信も活発化していることから、情報の編集・発信における連携も重要になっています。

■ 半田市・知多半島の「顔」としての観光やビジネスとの連携

中心市街地の活性化には、市民だけではなく、観光やビジネスによる来訪者も大切になります。このため、半田市・知多半島の「顔」としてのポテンシャルを最大限に活用し、市外からの来訪者も充実できるまちづくりが必要となっています。

■ 利便性ととも、ワクワク感の向上につながるまちづくり

中心市街地に対しては、利便性だけではなく、くつろぎ、楽しみ・ワクワクなども市民に期待されていることから、中心市街地の利用者層を拡大させるためには、利便性・機能性だけではなく、楽しさ、ワクワク感などの充実も必要となっています。

5 半田市の中心市街地における「活性化」とは

まちに「人がいること」が必要不可欠ですが、単に来街者や通行者の「数」が増えて「にぎわい」が生まれればいいということではありません。人通りが多くても、単なる通過者では活性化にはつながりません。「街で何かをする」「街で人とつながる」「街で時間を過ごす」、これらの人がそれぞれ増え、この結果として、人と街との関わりが深くなるということが大切であり、地域の活力や経済循環につながると考えます。

半田市の中心市街地においては、このような活性化をめざして、様々な取組を行っていきます。

Ⅲ. 中心市街地まちづくりの基本方針

これからの半田の中心市街地をけん引する若手商業者の意見をもとに基本方針をとりまとめました。この方針に基づいて若手商業者が取り組む具体的なアクションに対して、商工会議所はその実現に向けて共に取り組んでいきます。

1. 理念・ビジョン

日々暮らしている中で、人には言えないような、
本当に自分の「やりたいこと（欲求）」を放出できる。そんな…

**「世の中の消費トレンドに迎合しない、
誰も自分の心の中に持っている“これがしたい”“こうありたい”
という欲望を楽しめるまち」**

を当所が目指す中心市街地の将来の姿として設定します。

それにより**まちの魅力が拡大し、自分らしく生きやすいまち**が形づくられ、
結果として**地域経済**を動かし、**中心市街地の活力**をつくっていきます。

キーワード

チャレンジ …情熱（欲求）を持つ人が集まり、その欲求に自由にチャレンジできるとともに、それを全力で応援するまち
(欲求に挑戦)

日常と非日常の融合 …刺激的な非日常が楽しめるとともに、非日常の取組の日常化によって魅力を高め、大勢の人を集めるまち
(非日常の日常化)

多様なつながり …情熱を持った人がつながり、多様性を認め合い、ゆるやかな連携を通じてイノベーションが創発されるまち
(イノベーション、承認欲求)

地域の独自性 …半田市内、さらに知多半島独自の歴史や文化などを再解釈し、自分たちなりの楽しみ方を見つけていくまち
(ユニークな価値観)

全員が楽しむ …年齢性別関係なく、まちにいる全員が自分のやりたいことを素直に楽しめるまち
(やりたいことを楽しむ)

2. ターゲット

こだわりや情熱をもち、自分らしい幸せな暮らしを 追い求めて 積極的に行動するひと

時代は“差別化や個性”が大事とされ、独自の世界観やスタイルを持って新しい取組にチャレンジする人も増えています。自分なりのこだわりや熱い情熱をもち、自分らしいライフスタイル（生き方、働き方など）の実現を追い求めて積極的に行動する人を、とくに年齢・性別を問わずターゲットとします。

以下のように、ターゲットとして想定される人物像（ペルソナ）を具体的に設定し、中心市街地との関わり方などを想定しながら、必要な取組を検討しました。

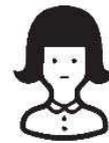
（具体的な取組アイデアは「IV. 実施する取組アイデア」参照。）

〈ペルソナ 01〉



山田太郎(35歳/男性)独身サラリーマン
・太田川在住。通勤で半田駅-知多半田駅間を歩く
・昼間は会社で働き、夜はコンビニ弁当で済ます
・ガンダムのフィギュア集めが趣味で
家に帰ると、玄関にフィギュアがずらりと並んでいる
・SNSはほとんどやっていない

〈ペルソナ 02〉



伊藤愛子(20歳/女性)大学生
・名古屋市在住
・休日にニッチなショップ巡りをするのが趣味
・紫色が好きで、前髪が短い
・インスタグラマーになりたい

〈ペルソナ 03〉



鈴木花子(75歳/女性)夫婦2人暮らし
・知多半田駅前マンション在住
・一生を夫や子供に尽くしてきた
・今後は思いっきり自分の楽しみを追及したい
・毎日のルーティーンに刺激がなく、生きがい欲しい

〈ペルソナ 04〉



佐藤一男(12歳/男性)小学生
・知多半田駅前マンション在住
・中心市街地でお父さんと一緒にスーパーに行く
・魚がとても好きで、小ざかなくんと呼ばれている
・将来の夢は、さかなユーチューバー

IV. 実施する取組

ビジョンの実現に向けて、当所として実施可能な取組を行うとともに、地域の商業者から提案された民間主体の事業アイデアの実現をサポートしていきます。

写真は全てイメージ

1. 次世代育成・起業支援による新たな事業創出

新しい事業を志す人材に、ノウハウや資金、場所といった不足しがちな資源を提供するなど創業しやすい環境をつくとともに、子どもや若手社会人のチャレンジを支援します。

【商業者から出された取組アイデア】

- ・イノベーションスクール（起業支援や経営指導、セミナー）
- ・チャレンジショップ
- ・未利用地を活用した店舗づくり（駐車场上コンテナ）
- ・融資やクラウドファンディングなどの資金サポートシステム
- ・こどもPLAZA塾（子ども商売（キャリア教育）体験）
- ・市内事業所従業員向け 半田を学ぶ研修事業



キックオフ事業の一例

商業者になりたい！情熱を支援する「チャレンジショップ」

多くの人が子供の頃は、カフェを開きたい、お花屋さんを開きたいなど、いわゆる独立開業に憧れたことがあると思います。そんなかつて抱いていた欲望や、今すぐ始めたい面白いアイデアはあるけど実践する資本や経験がない方たちの欲望エネルギーを集め、支援するチャレンジショップを作ります。

〈場所〉特区にある駐車场上、知多半田駅前ロータリー



■ 駐車場 ■ 駅前ロータリー

- ・欲求特区には、店舗等利用者駐車場、月極駐車場、コインパーキングなど駐車場が多く存在します。
- ・時間極駐車場の稼働率は平均で約40%、クラシティ駐車場の稼働率は約20%です。

駐車場の形態は様々ですが、空気に駐車場の上空、知多半田駅前ロータリーを使わせていただくよう、市や商工会にご協力いただきたいと思います。

〈提案〉駐車場の上空を利用し、空中コンテナを増築

駐車場の上空が空いていることを利用し、「打つ」発想を始めやすくなるよう、空中増築プランを提案します。仮設で建てることで、時代の変化に対応しやすいテナントができます。

空中増築プラン

既存の駐車場上に店舗をつくる。店舗を取り壊せば、元の駐車場に戻る。



〈駅前〉

空中コンテナ密集プラン

直々耳にする、声の方が良かったという意見を受け入れ、今の様子をSNS取説を扱う）でアーケードを作ります。



〈その他駐車場エリア〉

空中コンテナ+外テラス・通路

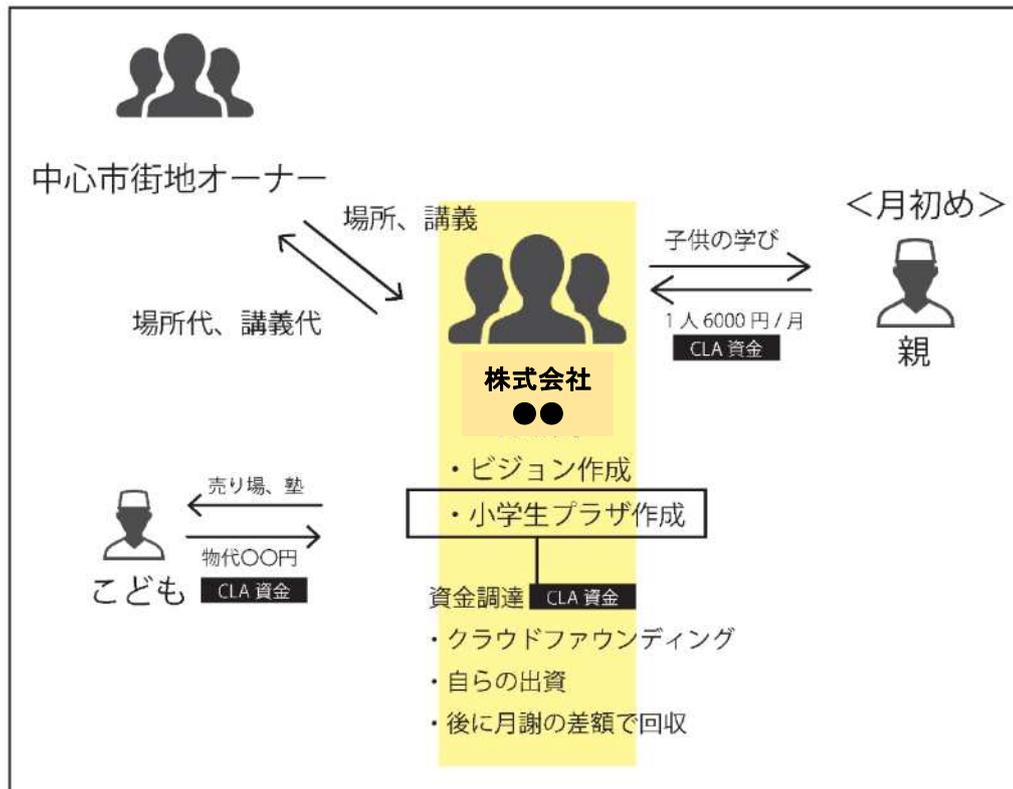
空中コンテナを拡張するだけでなく、さらに外テラスや通路をつなぎ、街を自由に使っていきます。



キックオフ事業の一例

将来への情熱を持ち続ける人材の育成！「こども PLAZA 塾」

中心市街地全体を一つの塾として、子どもが商売を学び実践することを通じて、情熱（夢）を貪欲に持ち続ける人材を育成するための塾を実施。まちの経営者が先生になって商品の売り方などを指導し、経営感覚や思考力、社会基礎力などを身につけます。資金調達や知名度向上を図るために、クラウドファンディングでの資金調達を目指します。



2. 暮らしを豊かにする商業・サービスの向上

新たな店舗の誘致や起業支援等により、新たなライフスタイルに応じた日常生活の質を高めるためのこだわりの商品やサービスを提供するなど、中心市街地における新たな付加価値の提供を支援します。

【商業者から出された取組アイデア】

- ・子育て支援センターと連携した「子育てカフェ」の誘致
- ・知多半島の資源を販売・情報発信する専門店誘致
- ・レンタサイクルを活用したまちなか周遊スタンプラリー
- ・オリジナルスイーツや地ビールなどの新たな特産品開発
- ・欲望Tシャツ屋さん、うしくん事業、スナック書道



3. 公共空間等を使いこなした新たな魅力づくり

駅前広場や公園、歩道などの空間的にゆとりのある公共空間を、住民の楽しみや憩い、遊びの場などとして柔軟に使いこなし、中心市街地に新たなアクティビティや滞留の創出を支援します。

【商業者から出された取組アイデア】

- ・公共空間を活用した「CLAイマックスバザー（マルシェ、フリマ、駅前青空BBQ）」
- ・クラシティ連絡通路を活用した市やオープンカフェの開催
- ・知多半田駅前広場やおおまた公園のリニューアル（遊び・憩いの場）
- ・駅前広場に常設型ストリートピアノの設置



4. 新たな魅力を生み出すための場づくり

外部から誘致する店舗などが入居できる特色ある商業・交流施設や、中心市街地で起業した事業者などがコストを抑えて利用できるシェアオフィスの整備などについて検討します。

【商業者から出された取組アイデア】

- ・駅前アーケードの整備
- ・既存のビルなどを活用した新たな商業・飲食ビルの整備
- ・シェアオフィス、コワーキングスペースの提供
- ・SNS映えするスポット（店舗・モニュメント）の整備
- ・まちなかの新たな移動手段の導入（例：三輪自転車、セグウェイ）

5. WEB等を活用した独自コンテンツの開発・発信

WEBにおけるショッピングや人材のマッチング、中心市街地のこだわりのサービスに関する情報発信など、利用者の利便性や魅力を高めるための環境整備を支援します。

【商業者から出された取組アイデア】

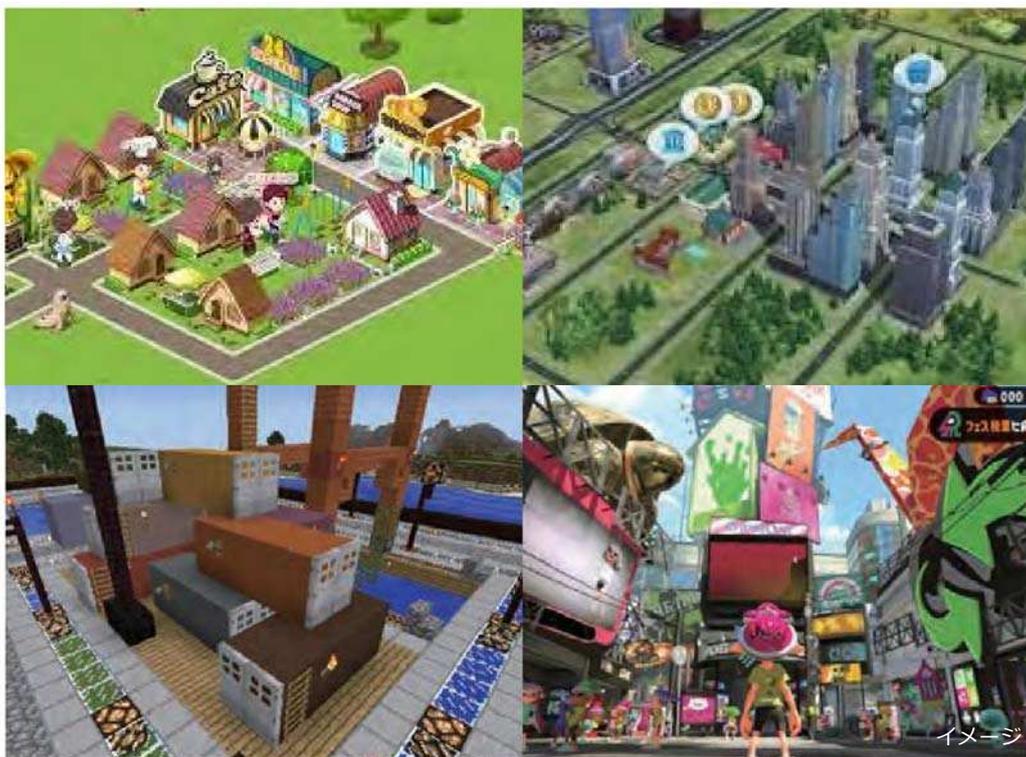
- ・仮想中心市街地「クラウドCITY」（WEB上）
- ・地域密着ニュース情報発信
- ・QRコード決済システムの導入・先進地化
- ・WiFiの整備
- ・マッチングアプリの開発（例：家事代行）
- ・既存店舗の独自コンテンツの磨き上げ・発信強化
- ・半出し図鑑&ツアー実施（個性的な人物紹介）



キックオフ事業の一例

世界に妬まれたい私たちの情熱を満たす「仮想駅前空間」

インターネット上に、変わっていく知多半田駅前とリンクした仮想の知多半田駅前を構築し、知多半田駅前体験できる様々なコンテンツを仮想駅前空間でも体験できる仕組みも検討します。ここではクラウドファンディングで投資したり、実際のイベントと連動した買い物を楽しめたりと駅前で行う様々な施策を世界中の人が楽しむことができます。



V. 実施における視点（留意点）

古くからの歴史ある「蔵」と 中心市街地の核「クラシティ」が融合し、魅力的な知多半島のヒト・モノ・コトを生かした新たな価値を創造する現代版 蔵のまち「CLA CITY」の活性化にむけて、以下の点に留意し地域の商業者と連携しながら着実に推進します。

1. 「稼ぐ」仕組みづくり

- ・ 中心市街地の発展に必要な事業に投資できるように、実行組織としても収益事業などを手掛けて自主財源を確保するなど、継続的に「稼ぐ」仕組みを構築する
- ・ 若い起業家などがリスクを抑えながら新たな事業にチャレンジし、「稼ぐ」ことができるような創業を支援する仕組みを構築する

2. 時代の変化に対応できる柔軟性

- ・ 短期間で陳腐化し一過性のもので終わらないようにするために、時代の変化に合わせて柔軟に商業施設やコンテンツ、発信方法を見直していく
- ・ 10年スパンで見直しができるような仮設型で可変的なハード整備を考慮する

3. 歴史・文化の価値を未来につなげる

- ・ 知多半島の顔として、半田だけでなく知多半島の歴史・文化資源の価値を見直し現代価値化して、「知る・味わう・体験する」ための資源として有効活用する

4. WEBや新たな技術の活用

- ・ WEBを最大限に活用して自由度の高い仕掛けや仕組みを検討する
- ・ 実空間との相乗効果を発揮できるように、リアルとバーチャルのバランスに配慮する
- ・ AIや自動運転、ドローンなど新たなテクノロジーの積極的な活用に努める

5. エリアのゆるやかなつながりによる相乗効果

- ・ JRの高架化のインパクトを活かし、JR半田駅付近、さらに運河周辺までを含むエリア全体にゆるやかなつながりを持たせて、相乗効果の発揮できる一体的な取組を推進する
- ・ 運河沿いで新たな取組もみられ、観光的な取組での連携も視野に入れて検討する

6. スモールスタート、トライ&エラー

- ・ 社会実験的な取組を積極的に行うなど、最初はスモールスタートで試行錯誤しながら本格的な取組へと大きく育てていくスタンスをもつ
- ・ 新しい実験的な取組にチャレンジできるエリアであるという位置づけやイメージを高める

VI. 実現に向けた推進体制

1. 実行組織のイメージ

民間が主体となって一つずつ着実に事業を進めていくために、商工会議所として地域の事業者や関係機関と連携し、以下のような点を踏まえて事業の中核を担う「実行組織」の構築を検討します。

<民間主体のエリアマネジメント組織>

- ・本ビジョン策定に関与したメンバーや当所スタッフなどの民間の人材が中心となった組織
- ・事業の企画・立案・調整、起業支援やテナント管理、公共空間の管理・運営等を担う
- ・行政の補助金頼みでなく、自主事業を通じた自立した運営を目指す

<意欲的な若い人材の積極的な登用>

- ・新しいことにチャレンジしたい意欲のある若手人材や女性を呼び込み積極的に登用
- ・若い発想やアイデア、スキルを活かし、価値観やテクノロジーの変化に柔軟に対応

<経験豊富な事業者・商業者による支援>

- ・事業や経営の経験が豊富で地域に精通する事業者・商業者による支援（助言、指導など）
- ・新しいチャレンジと既存の事業や店舗、人材・組織のつなぎ円滑な事業推進を担う

<地権者との連携>

- ・中心市街地内の土地活用について、資産価値の最大化（維持・増大）が図れるように、専門家と連携を図りながら土地利用や建築、開発等に関する地権者への支援を行う

<行政や関係機関とのパートナーシップ>

- ・当所が調整役となり、行政の関係部署とも連携を図りながら官民の協働で推進
- ・商店街や観光協会などの中心市街地及び周辺地域で地域活性化に取り組む既存組織と連携
- ・さらに、事業内容に応じて地縁組織や各種団体、NPO等とも事業レベルで柔軟に協働

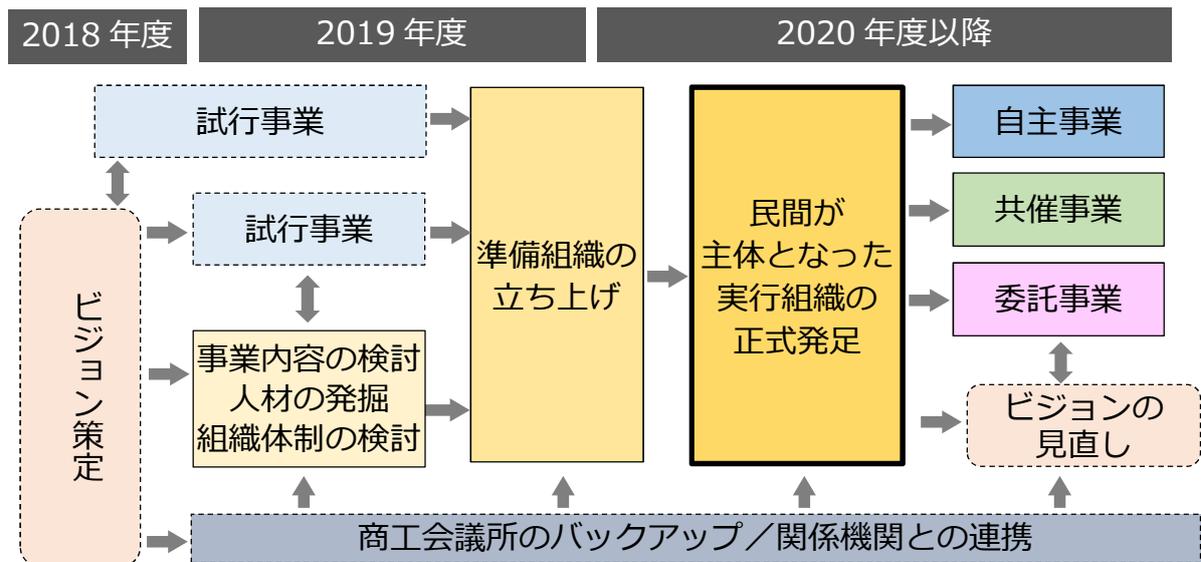
■ 行政に期待する役割

- ・公共空間の利活用（例：道路占有等）における、都市計画・建築法規等の柔軟な運用、規制緩和、関係機関との調整・協議の支援
- ・社会実験・実証事業等の取組に対する助成
- ・公共施設の整備、維持・管理
- ・まちづくりの方針や地域ルール（ガイドライン）の策定などを通じたエリア全体の持続的なまちづくりや景観づくりの適正な誘導・促進
- ・実行組織へのオブザーバ参加 など

2. 発足までのステップ

本ビジョンの策定にも関わった地域の事業者や関係機関とともに、具体的な試行事業等にも取り組みながら、事業内容や組織体制、新たな人材発掘などを検討します。そして、民間が主体となった実行組織の発足にむけて、当所としてもサポートします。

なお、この計画は、概ね10年程度（2019年から2028年）を見据えた計画とします。その際、様々な取組を実施しながら街の状況を常に見つめ直し、必要に応じて計画を改訂していくこととします。



(参考)

中心市街地活性化ビジョン策定委員会 名簿

(順不同・敬称略)

役職	氏名	事業所名
委員長	千頭 聡	日本福祉大学 国際福祉開発学部
副委員長	吉村 輝彦	日本福祉大学 国際福祉開発学部
	滝本 均	半田市 市民経済部長
	城平 直人	半田市商店街連合会 会長
	榊原 宏	NPO 法人 半田市観光協会 事務局長
	水野 貴之	半田商工会議所 副会頭
	京才 泰直	半田商工会議所 専務理事

オブザーバー

	出口 久浩	半田市 市民経済部 経済課長
--	-------	----------------

事務局

	新川 幸嗣	半田商工会議所
	竹内 圭志	半田商工会議所
	池田 哲也	一般社団法人 地域問題研究所
	春日 俊夫	一般社団法人 地域問題研究所

中心市街地活性化ビジョン策定委員会 ワーキンググループ名簿

(順不同・敬称略)

役職	氏名	事業所名
WG長	吉村 輝彦	日本福祉大学 国際福祉開発学部
	水野 貴之	株式会社 トロワ・アバンセ
	浅井 泰博	有限会社 大和屋家具店
	鈴木 雅貴	株式会社 カネマタ
	野々村昌和	長文種苗店
	信岡 徹也	株式会社 ブランディング
	柴田 高広	株式会社 ブランディング
	松石竜一郎	株式会社 マツイシ楽器店
	池脇 啓太	日本福祉大学
	榊原 宏	特定非営利活動法人 半田市観光協会

オブザーバー

	市川 大輔	Architectural design market 一級建築士事務所
	佐藤 朱莉	株式会社 ブランディング

事務局

	新川 幸嗣	半田商工会議所
	竹内 圭志	半田商工会議所
	池田 哲也	一般社団法人 地域問題研究所
	春日 俊夫	一般社団法人 地域問題研究所
	太田 敦之	半田市 市民経済部 経済課

